

地歴公民(日本史) 慶應義塾大学 商学部 1/1

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式58問(語句選択58問) 記述式20問 計78問

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数3題は変化なし。小問数は1問減少。年代整序問題・正誤問題は出題されなかった。論述問題は短文記述形式のものが例年出題されていたが、今年度は出題されなかった。

出題の特徴や昨年との変更点

昨年度は中世史1題、テーマ史1題、戦後史1題の時代構成であったが、今年度はテーマ史2題、近現代史1題の構成であった。時代ごとの大問の構成が年度ごとに変わるのが、商学部の特徴である。また今年度は文化史の比重が高まった。

その他トピックス

大問Ⅱの(41)(42)、(43)(44)、(45)(46)、(57)(58)、(59)(60)、(61)(62)は、直前講習「早慶大日本史テスト」とズバリの中。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択 記述	原始～近世の文化の 伝播・拡大	問1(17)(18)「三条西実隆」、問3(1)「アスファルト」は難。問1(19)(20)「姜沆」はやや難だが、慶應義塾大学志望者なら正解したい。(21)(22)「弘文館」、(25)(26)「吉川惟足」は消去法で解答できただろう。問2(e)「道春」はやや難。	標準
II	語句選択 記述	江戸・明治期の学問と 西洋学術の導入	平易な問題ばかりで、ここで高得点を獲得したいが、問2は正確な漢字が書けたかどうかで得点差がついただろう。問3(1)は「安藤信正」を正解として作問されたと思われるが、厳密には「久世広周」が正解となる。(65)(66)「ポンペ」、(75)(76)「ナウマン」はやや難だが、語群吟味で正解したい。問3(2)「伝染病研究所」を設立した「北里柴三郎」は慶應義塾大学医学部の創設に携わった人物であるがやや難。	やや易
III	語句選択 記述	戦中期～現代の政治 とエネルギーの利用	問1(85)(86)「ワシントン」、(97)(98)「1982」、問3(1)「松代」、(3)「全日本学生自治会総連合」は難。問1(83)(84)「1957」はやや難。(107)(108)「日米構造協議」もやや難だが、昨年度も出題されている。問1(89)(90)「有沢広巳」、問3(4)「吉田茂」は慶應義塾大学志望者なら正解したい。問1(101)(102)「天安門事件」は語群吟味で正解したい。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書範囲を超えた設問が見られることもあるが、それには固執せず、教科書の範囲内で解ける問題を取りこぼさないように学習することが肝要である。特に、商学部は記述式問題が多いので、歴史用語を正しく書く練習を欠かさないようにしたい。政治・社会経済・外交・文化を満遍なく学習したうえで、頻出テーマである社会経済史・文化史については、少し詳しく確認しておくとうい。